

保育の現状と課題に関する研究

～農と食、保育とのつながり～

生活科学科1年 14班7名

1. 研究の動機

私たちは農業科目と家庭科目を専門に学習し、保育では保育士の低賃金や保育士不足、虐待等の問題について学んでいる。天草の保育園の現状を知り、天草の保育園で農業体験活動をどれくらい取り入れているのか、農業を学んだ私たちが保育園で実施できる活動を探っていききたい。

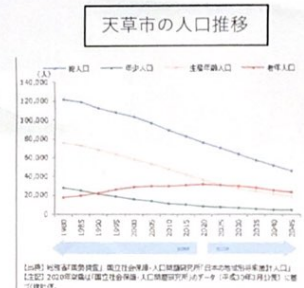
2. 研究の概要

(1) 天草市の保育所の現状

天草は少子高齢化が進み人口も減少しており旧本波市中心部以外では定員割れの状態である。

熊本県では過疎地域で認定されている20人定員の保育所が15施設ある。

そのうちの8施設の保育園が天草にあり、天草は危機的状況。



(2) 近隣の保育園の取材から見てきたこと

① 農業体験活動について

【栽培する農作物の条件】

- ・ 給食に使いやすい食材であること
- ・ 育てやすい作物であること
- ・ 皆が平等に収穫できる（例：たまねぎ）
- ・ 遊びの活動につなげられる（例：風船かづら）



風船かづら



種を遊びに活用

【食育として取り入れている】

- ・ 園児は自分たちで育てたものは嫌いなものでも頑張って食べる。（年齢に応じたクッキング…料理は五感！）
- ・ 紙芝居、絵本を活用する。



② 方針

- ・ 自らの在り方を積極的に評価できる感情、自らの価値や存在意義を肯定できる感情などを育む。
- ・ 良い環境の中で、豊かな感性を育む保育を通して、心身ともに健やかでたくましい子供を育てる。
- ・ 子供たち一人ひとりを「ほとけの子」として尊重し、それぞれに応じた成長の手助けをして、食育、体力づくりにも積極的に取り組む。

3. まとめと今後の取り組み

近隣の保育園に行って話を聞き、天草の保育の現状やどんな農業体験活動を行っているのか等、様々なことが知れた。熊本全体で見ると、天草は過疎が進んでいるのに天草の中でも地方に行くほど、過疎が進んでいることに驚いた。

※ 様々な活動を通して今後取り組んでいきたいこと

- ① 天草市の保育園にアンケート調査
- ② 体験活動の内容を考え実施

